



# ゆくて遥かに

平成31年1月15日(火)

第41号

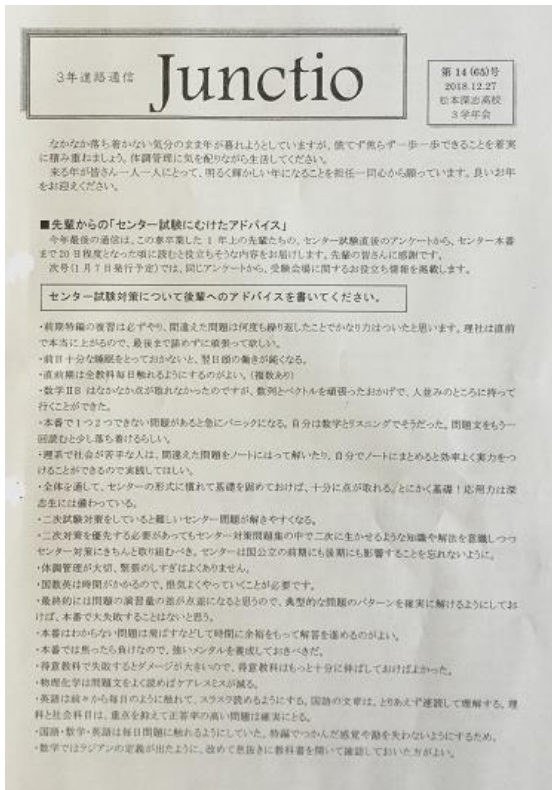
長野県松本深志高等学校長

## 中間考査(1月9日~11日)と特編授業

新年明けて早々、1・2年生は三学期の中間考査が三日間の日程で行われました。授業(予習・復習を含めて)と定期考査を通じて学力の基礎を培っていくのが学習の基本ですが、期間の短い三学期に中間考査を実施している学校は少数派になるかもしれません。年末年始休業の日々は他の長期休みに比べて非日常性が色濃く出ますので、ここの考査は準備も含めて厳しいものがあったことでしょう。一方、3年生は引き続き特編授業。大学入試センター試験を目前に控え、現役生は最後まで伸びると励まされながら、あるいは自分自身を鼓舞しながら、必死の努力が続いています。7日に送られた3年進路通信「Junctio」には、昨年度



卒業生たちから送られた、センター試験会場に関するアドバイスが掲載されていました。事前を知っておいたほうが良い貴重な情報がたくさん含まれています。後輩のために、という一点を共通の目的として語られている先輩の助言は本当にありがたいものです。ちなみにJunctioはラテン語で、読み方はユンクティオー、英語のjunctionにあたります。「(知の)交差点」という意味だそうです)9日には県内全域にインフルエンザ注意報が出されました。学級閉鎖などは昨年度よりやや遅いペースのようですが、流行期に入ったことは間違いありません。健康には充分留意して、まずは心身ともに万全な体調で本番を迎えられるように祈っています。そして、一人一人の積み重ね、一つ一つの積み重ねの総和としての深志の底力を存分に発揮されることを期待しています。



## 大学入試インターネット出願考

旺文社の調査によれば、国公立大学全体の約46%、私立大学全体の約55%がインターネットを利用しての出願が可能になっているのだそうです。紙の願書を請求・入手して要項を熟読し、手書きで慎重に記入し、何度もチェックした後、祈りも込めて郵送するという作業は既に過去のものなんですね。インターネット出願のメリットを聞いてみると、願書の取り寄せが不要、いつでも出願可能、修正が容易で記入漏れ防止や内容の確認・変更も可能、受験料の支払いが便利、と次々に挙がりました。受験の重み自体は不変でも、手続きは時代とともに進化しています。

今から三年程前、阿部知事が定例記者会見で、スマホ向けゲーム「ポケモンGO」の観光利用について記者から聞かれ、「検討の余地はあるが、長野県の強みはバーチャル(仮想)世界ではなく、リアル(現実)な世界。本物を追求して観光振興、地域づくりを考えるのが望ましいのではないかと」の考えを示したことがあります。受験料もカード決済と聞いて、なぜかこの会見を思い出しました。受験料の支払いはリアルな方が重みを感じるのでは、と思うことが既に時代錯誤なんですね…。

# 高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針

昨年の9月に県教育委員会が発表した、これからの長野県の高校が目指すべき方向性について県としての考えを示した冊子のタイトルです。県立高校の第一期再編は平成30年を目途に行われてきましたが、結果として県立高校は89校から79校となり、数的には約10年間で10校の県立高校がなくなったこととなります。しかし少子化は引き続き進行していて、さらなる再編・統合は避け

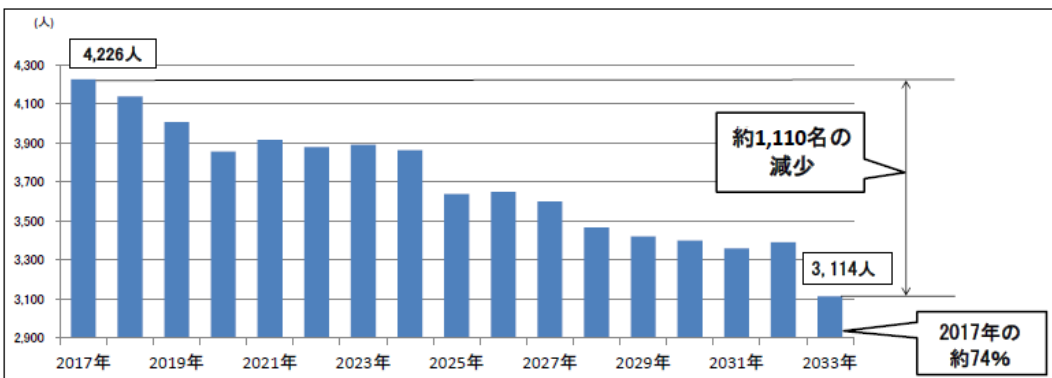
旧第11通学区中学校卒業生数の予測

長野県教育委員会 高校教育課  
(単位:人)

	2017年 H29	2018年 H30	2019年 H31	2020年 H32	2021年 H33	2022年 H34	2023年 H35	2024年 H36	2025年 H37	2026年 H38	2027年 H39	2028年 H40	2029年 H41	2030年 H42	2031年 H43	2032年 H44	2033年 H45	2017年と 2033年 との増減	2017年と 2033年 との比率
11区	4,226	4,139	4,007	3,855	3,915	3,879	3,891	3,863	3,639	3,649	3,600	3,468	3,422	3,399	3,360	3,392	3,114	-1,112	73.7%
前年度比 増減	—	-87	-132	-152	60	-36	12	-28	-224	10	-49	-132	-46	-23	-39	32	-278		

注) 2027年までは、2018年度学校基本調査による数。2028年以降は、2018年度長野県人口変動調査による数。

(2018年9月作成)



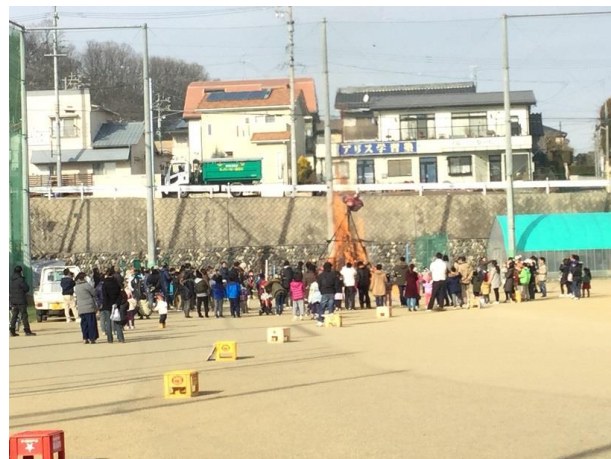
られません。左の資料は最新の人口統計を参考にして作成された、11区の中学校卒業生数の予測です。2033年には約1,110名の減。この数字の重みを



現実のものとしてしっかり受け止めて、11区の高校の将来像を地域の皆さんと考えていかなければいけません。学びの改革とともに待ったなしの状況です。

## その他の話題

★ 12日の土曜日の午後、本校グラウンドの西端で深志ヶ丘町会と蟻ヶ崎東町会合同の**三九郎**が行われました。三九郎は、正月飾りやダルマ、書き初めなどを焼いて無病息災を願う小正月の伝統行事です。似たような行事は全国的にもあるそうですが、三九郎と呼ぶのは中信地方だけ。他の地域では**どんど焼き**と呼ばれたりしています。近くに田んぼや河川敷がない住宅街では場所の確保が問題で、少々手狭ですが、繭玉を付けた柳の枝を持った子どもたちが楽しそうに火の周りに集まっていました。



## 今週の予定 (B1)

日	曜日	行事等	その他(主に校長動向)
15	火	学年会	中信地区教頭会
16	水	B1月の授業 壮行会 職員会	
17	木		校長研修
18	金		全国高校長会研究協議会
19	土	大学入試センター試験 模試(1・2年)	
20	日	大学入試センター試験	
21	月	(A2) 学年会 折衝会	